

タイトル:平成 17(2005)年度 教育セミナー

日時:平成 17 年 7 月 26 日(火)～29 日(金)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究 3 階 マルチメディアセミナー室(306)

「中東・イスラームというフィールド—さまざまなアプローチの布置状況」

大塚和夫(AA 研)

中東・イスラームを調査・研究するには、さまざまな専門分野(ディシプリン)があり、それに応じていくつものアプローチの仕方がある。本講義の目的は、その布置状況を紹介することである。ただし、講師が専攻している社会・文化人類学が軸になった。

まず、文献とフィールドワークのいずれに主眼を置くかという違いがある。前者を重視するのは、古典的宗教書を精読するイスラーム学、文字史料を渉猟する歴史学などがある。その場合、文献の著者、つまり読み書き能力を持つ知的エリートの世界に近づきがちになる。一方、フィールドから資料を得る人類学者は、一般ムスリムの日常的行動を観察し、彼／彼女らとの会話を通してその考えや価値観を知ろうとする。この他に、定量／定性分析、一般法則追及／個別事例記述といった志向性の違い、文献とフィールドの双方を扱う地域研究の課題は「地域」を越えた議論との関わりであること、などを取り上げた。